

障害者アート 渡仏

来年3月、パリの美術館で作品展

県社会福祉事業団通じ実現

個性的な作風が高い評価を得ている障害者アートの作家約70人の作品が来年3月に海を渡る。フランスのパリ市立アル・サン・ピエール美術館で開催される「日本の障害者作品展」に出展される。これほど多くの日本人作家の作品が海外で展示されるのは初めて。今月中旬に来日し、展示する作品を選定したマーティン・ルザリア館長は「世界が注目するであろう作品がいくつかあった」と語った。

(安田琢典)



日本人作家の作品を品定めするマーティン・ルザリア館長。近江八幡市の県社会福祉事業団

日本側の窓口は近江八幡市で障害者アートを収集する美術館「ボータレス・アートミュージアムNOMA」を運営する県社会福祉事業団。出品するのは同事業団と障害者支援のNPO法人「はれたりくもったり」が設立する著作権保護団体「障害者アーティストユニオン」(仮称)に所属が決まっている作家だ。ルザリア館長は今年16、17日に同事業団を訪れて約600点の作品に目を通した。細かい突起物が無数にひしめく陶芸作品や抽象的なモノクロの人物画、座席まで忠実に再現された紙製の電車模型などに強い関心を示した。作品の

ルザリア館長「注目作いくつかある」

大きさなども入念にチェックし、作品展のイメージを膨らませていた。

日本人の障害者アートはスリス・ローザンヌ市の「アル・ブリュット・コレクション」やパリの「abcd」など海外の美術館や財団も数多く収蔵する。それらの団体から日本人作家のレベルの高さを聞き及んだルザリア館長が、同事業団の北岡賢剛理事長に作品展の開催を打診し、実現した。

ルザリア館長によると、作品展の主なテーマは「日本文化の表現」と「作家本人の世界観の描写」の2点。「世界の収集家や画廊も納得するスター作家が生まれるかもしれない」と期待する。今後出展する作品を絞り込む。

開催は10年3月から8月を予定する。パリの作品展が終わった後、国内でも展覧会を開く。北岡理事長は「日本人作家のレベルの高さを海外にアピールする絶好の機会。成功させたい」と話す。